

童夢零(ドゥムゼロ※下囲み記事に説明あり)を前に車大好き2年生記者(竜)と竹元さん→

最先端の安全性を兼ね備えた最速のマシンを造る

(株)童夢に突撃取材

車特集 第10弾

出来るかどうか分からなかった あったのは「造りたい」という思いだけ



↑「具体的な目標を持って」八工生にエールをくださった代表取締役社長の松村晃行さん



↑「ル・マンカーを造りたくて童夢に入社した」と語るアシスタントマネージャーの竹元勝和さん

みなさんは滋賀県米原市に本拠地を置く株式会社「童夢(どうむ)」を存じだろうか。童夢が手がけるのは公道を走る一般の車ではなく、サーキットにおいて極限の状態で競うレーシングカーだ。レーシングカーの設計・製造・修理に加え、レーシングチームの運営も行う。記念すべき車特集第10弾は特別編。速く走ることに情熱をかける「技術屋集団 童夢」の真相に迫る。

すごいマシンとすごいドライバー それですごく速くは走れない

「自動車造りを楽しむ会社」を名乗る株式会社童夢。代表取締役社長の松村晃行さんに話を聞いた。モータースポーツに関する童夢の使命は「厳格なルールに適合する車を造り、限界まで攻めても安全な車を造ること」と言う。レーシングカーは安全であって初めて限界まで攻めることができる。また「スポーツの中でもモータースポーツはコミュニケーションが一番必要なスポーツ。速い車と速いドライバーを連れてきて運動するのはもちろん

夢のために 毎日の生活を どう積み重ねるか

「どう？レースやってみたい？」と車好き記者(竜)に逆に質問してくださる松村さん。まごつく記者に対して「やったことない事が出来ないのは当たり前だから」「若い時からぜひ大きい夢を持って」「次にその夢をできれば具体的な数字を持った目標にする。そして期限を決めて逆算する。そうするといまはコレをやる、コレに到達するように動く、と日々の課題が出てくる。それを実現していく努力をするんだよ」と八工生へメッセージをくださった。

京都から米原に移転した童夢本社社屋



めに毎日をどう積み重ねるか、そこが重要だ。

「最高に安全な車」 それはレーシングカー

営業部アシスタントマネージャーの竹元勝和さんは、開発するレーシングカーについて「モータースポーツで死亡事故を起こさない、そういう車を造りたい」と自身の使命感を伝えてくれた。

最高安全性を備えた最速マシンをつくるのが童夢の仕事だ。その中で培った金属加工やカーボンのノウハウを、他分野でも活かす、世の中に役立つモノづくりにしていきたいという。

環境への配慮も大事にしている。少ない燃料でハイパワーが稼げるような設計やカーボンモノコックを使用したボディの軽量化を施している。限界走行をしても壊れない高い技術がレーシングカーに込められ、時代に合わせ、日々進化し続けている。(竜)



↑ジオット・キャスピタ

童夢の始まりは1975年に設立された「童夢プロジェクト」という今でいうベンチャー企業のような集まりだ。集まった若者達の望みはただ一つ。「クルマが造りたい」という思いだった。全くノウハウも何もない中で取り組み、1978年に試作車「童夢零(ゼロ)」を完成させ、世界中で大きな反響を呼んだ。しかし日本国内で自動車企業としての認可を得られず、アメリカでのライセンスを取得するために「童夢P12」を開発するも最終的に生産は叶わなかった。一方零関連のグッズは多大な人気を集め、その収益を元にル・マン24時間レースに参加。「童夢零RL」を製作、レースへの参戦を開始した。その後トヨタと「セリカターボ」「トムスセリカC」「童夢85C」等を製作、1985年にカーボン素材を使用したバイク「ブラックパッファロー」でカーボンボディを初製作し、その後のレーシングカーでもカーボンが多用されていくこととなる。

次なる「少年の日の夢」に向かって～童夢の歴史

そして1989年、新たな市販スポーツカーとして「ジオットキャスピタ」を製作、2台が完成するも、バブル崩壊の煽りを受けて、共同開発をしていたスバルが撤退、またもや市販化への道は消えてしまった。そのさなかの1988年に童夢F1プロジェクトの第1号「童夢F101」を製作、F3000用のフルカーボンボディの製作を開始した。更に1997年からは「無限」と共に「ホンダNSX」のGT仕様車を開発し、全日本GT選手権(スーパーGT)にも参戦を果たした。2001年にル・マン用に「童夢S101」を開発、その後7年間に渡り改良を重ねながら活躍し、後継の「S102・S102・5」が開発された。近年では世界共通のFIA・F4用のジュニア・フォーミュラカーの製作やスーパーGTで使用されるマシンのマザーシャーシの開発、個人向けのレーシングカー・フォーミュラカーの製造販売などの事業を展開している。



→童夢 S102・5